

<p>1. 个人取得哪些所得应当缴纳个人所得税</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 工资、薪金所得; 2) 个体工商户的生产、经营所得; 3) 对企事业单位的承包经营、承租经营所得; 4) 劳务报酬所得; 5) 稿酬所得; 6) 特许权使用费所得; 7) 利息、股息、红利所得; 8) 财产租赁所得; 9) 财产转让所得; 10) 偶然所得; 11) 经国务院财政部门确定征税的其他所得; <p>2. 在个人所得税的应税项目中个人取得不同项目的所得应当如何缴纳个人所得税</p> <p>个人取得税法规定的应税所得项目中的两项或两项以上所得的，应按照规定各项所得分别减去相应费用后，计算缴纳个人所得税</p> <p>3. 两人或两人以上共同取得同一项所得，应当如何缴纳个人所得税</p> <p>两人或两人以上共同取得同一项所得，每个人应当就其取得的所得分别按照税法规定减去费用后计算缴纳个人所得税</p>	<p>1. 中国における個人所得税の課税範囲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 給与、賃金所得 2) 個人事業主の生産、事業所得 3) 企業行政団体の請負事業所得 4) 役務報酬所得 5) 原稿料所得 6) 特許権使用料所得 7) 利子・配当、分配所得 8) 財産賃貸所得 9) 財産譲渡所得 10) 偶発所得 11) 国務院財政部が徴収を定めるその他の所得 <p>2. 個人所得税の課税対象科目において、複数の異なる項目の取得を得ている場合の課税について</p> <p>個人所得税法に規定されている課税対象項目中、2項目又はそれ以上の項目の所得を得ている場合、各項所得から相応する費用を差し引いた後、個人所得税納付額を算出する</p> <p>3. 2名又は2名以上の者が共同で同一項目の所得を得た場合の課税について</p> <p>2名又は2名以上の者が共同で同一項目の所得を得た場合については、該当する所得を各個人に按分し、費用を差し引いた後、個人所得税納付額を算出する</p>
--	--

<p>4. 个人取得哪些所得可以免纳个人所得税</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 省级人民政府、国务院部委和中国人民解放军军以上单位以及外国组织、国际组织颁发的科学、教育、技术、文化、卫生、体育、环境保护等方面的奖金； 2) 国债及国家发行的金融债券利息； 3) 按照国家统一规定发给的补贴、津贴； 4) 福利费、抚恤金、救济金； 5) 保险赔款； 6) 军人的转业费、复员费； 7) 按照国家统一规定发给干部、职工的安家费、退职费、退休工资、离休工资、离休生活补助费； 8) 依照我国有关法律规定应予免税的各国驻华使馆、领事馆的外交代表、领事官员和其他人员的所得； 9) 中国政府参加的国际公约、签订的协议中规定免税的所得； 10) 经国务院财政部门批准免税的所得 11) 按照国家统一规定发给的补贴津贴，是指按照国务院规定发给的政府特殊津贴院士津贴、资深院士津贴，以及国务院规定免纳个人所得税的其他补贴、津贴 	<p>4. 個人所得税の免税範囲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各省人民政府、国务院各部と中国人民開放軍軍以上の単位及び外国組織、国際組織が授与した科学、教育、技術、文化、衛生、体育、環境保護などに対する賞金； 2) 国債及び国家発行の金融債券の利息； 3) 国家の統一規定による補助金、手当； 4) 福利費、遺族補償金、救済金； 5) 保険賠償金； 6) 軍人の退役費、復員費； 7) 国家の統一規定に基づき支給される幹部、職員の住宅手当、退職金、退職給与、離職給与、離職生活補助費； 8) 中国関連法律規定による免税とされている各国在中国大使館、領事館の外交代表、領事官員およびその他人員の所得； 9) 中国政府参加の国際公約、協議の締結により免税とされる所得； 10) 国務院財政部が免税と承認した所得 11) 国家の統一規定により支給される手当とは、国務院規定により支給される政府特殊学士院会員手当、名誉学士院会員手当、及び国務院規定の免税とされるその他の補助金、手当
<p>5. 个人取得工资、薪金所得应当如何缴纳个人所得税</p> <p>个人取得的工资、薪金所得，是指个人因任职或者受雇而取得的工资、薪金、奖金、年终加薪、劳动分红、津贴、补贴以及与任职或受雇有关的其他所得。</p>	<p>5. 個人所得の給与、賃金所得の課税について</p> <p>個人が取得した給与、賃金とは、個人が任命、雇用により取得した給与、賃金、賞与、年末昇給、労働配当金、手当、補助金及び任命、雇用に関連するその他所得。</p>

<p>工资、薪金所得按以下步骤计算缴纳个人所得税：</p> <p>每月取得工资收入后，先减去个人承担的基本养老保险金、医疗保险金、失业保险金，以及按省级政府规定标准缴纳的住房公积金，再减去费用扣除额 1600 元/月（来源于境外的所得以及外籍人员、华侨和香港、澳门、台湾同胞在中国境内的所得每月还可附加减除费用 3200 元），为应纳税所得额，按 5%至 45%的九级超额累进税率计算缴纳个人所得税</p> <p>计算公式： 应纳个人所得税税额=应纳税所得额×适用税率-速算扣除数</p> <p>个人取得工资、薪金所得应缴纳的的个人所得税，统一由支付人负责代扣代缴，支付人是税法规定的扣缴义务人</p> <p>6. 个人从单位取得住房、电脑、汽车等实物所得，是否需要缴纳个人所得税</p> <p>个人因任职或受雇而从单位取得的实物所得，如住房、电脑、汽车等，属于工资、薪金所得，应按照购买住房、电脑、汽车的实际支出金额计算缴纳个人所得税。另外，个人参加单位组织的免费旅游以及个人认购股票等有价证券时从其雇主处取得的折扣或补贴等，也应按照工资、薪金所得计算缴纳个人所得税。</p> <p>7. 个人从非任职单位取得的奖金如何缴纳个人所得税</p> <p>个人从非任职单位取得的奖金，除免税的奖金外，不论其来源于何处，不属于税法规定的工资、薪金所得项目，应按偶然所得或其他所得，适用 20%的税率计算缴纳个人所得税。</p>	<p>給与、賃金所得は以下の順序で個人所得税納税額を計算する</p> <p>毎月の給与収入額から先ず個人負担の基本養老保険、医療保険、失業保険及び省級政府規定の標準住宅積立金を差し引き、給与所得控除額の 1600 元/月額（本源が中国国外の所得及び外国籍人員、華僑及び香港、マカオ、台湾同胞の中国国内所得については毎月 3200 元の費用を控除可能）を控除した残額を課税所得額とし、5%－45%の九級超额累進税率を用いて個人所得税を計算する</p> <p>算式は以下である 個人所得税＝課税所得額×適用税率－速算控除額</p> <p>個人が取得した給与、賃金の個人所得税は一括して代行支払者が納税する。支払者とは税法に規定されている納税義務者</p> <p>6. 個人が単位から取得した住宅、パソコン、自動車などの現物取得所得の課税について</p> <p>任命、雇用による単位からの現物所得、例えば、住宅、パソコン、自動車などは、給与、賃金に属し、住宅、パソコン、自動車の取得価格に基づき個人所得税納税額を算出する。なお、個人は単位が組織する無料旅行への参加及び株券等有価証券購入に際して雇主から得た割引又は手当等も給与、賃金とし課税対象となる。</p> <p>7. 個人が在籍していない単位から取得した賞与の課税について</p> <p>個人が在籍していない単位から取得した賞与は、免税賞与を除いて、本源を問わず、税法規定の給与、賃金に属していないため、偶発所得又はその他所得として、20%の税率を適用し個人所得税納付額を算出する。</p>
---	---

<p>8. 单位以劳务费名义发放的收入如何缴纳个人所得税</p> <p>有些单位除向职工正常发放工资、薪金以外，还根据职工从事本单位其他专项工作情况，以劳务费等名义发放所得。这种所得实际是职工工资、薪金的组成部分，应与工资、薪金所得合并计算缴纳个人所得税</p> <p>9. 个人取得独生子女补贴、托儿补助费，是否需要缴纳个人所得税</p> <p>个人取得的独生子女补贴、托儿补助费，不用缴纳个人所得税。</p> <p>10. 个人取得全年一次性奖金或年终加薪，应当如何缴纳个人所得税</p> <p>个人取得全年一次性奖金（包括年终加薪）的，应分两种情况计算缴纳个人所得税：</p> <p>(1)个人取得全年一次性奖金且获取奖金当月个人的工资、薪金所得高于（或等于）税法规定的费用扣除额的。计算方法是：用全年一次性奖金总额除以 12 个月，按其商数对照工资、薪金所得项目税率表，确定适用税率和对应的速算扣除数，计算缴纳个人所得税。</p> <p>计算公式为：应纳个人所得税税额=个人当月取得的全年一次性奖金×适用税率-速算扣除数</p> <p>个人当月工资、薪金所得与全年一次性奖金应分别计算缴纳个人所得税。</p>	<p>8. 単位から労務報酬の名義で支給される収入の課税について</p> <p>ある単位は職員に通常の給与、賃金の支払い以外に、更に当該単位におけるその他専門作業に従事する状況下では役務費等名義で給与を支払う。実際はこの種の所得は職員給与、賃金の一部のため通常の給与、賃金に合算し個人所得税納付額を算出する。</p> <p>9. 個人が取得した一人っ子補助金、保育補助金の課税について</p> <p>個人が取得した一人っ子補助金、保育補助金は課税されない。</p> <p>10. 個人が取得する年に一度の賞与又は年末昇給の課税について</p> <p>個人が取得する年に一度の賞与（年末昇給を含む）は、二つの状況下での個人所得税額計算となる：</p> <p>(1)個人が年に一度の賞与を取得した所得が、当月の給与、賃金が税法に規定される控除額より高い場合は以下のように計算する： 支給賞与額を 12 で割った額に対する適用税率および控除金額を確定して、個人所得税を計算する。</p> <p>計算式：個人所得税額＝支給年間一回賞与額×適用税率-控除額</p> <p>個人の当月の給与と年間一回賞与はそれぞれ税金を計算する、</p>
--	---

<p>(2) 个人取得全年一次性奖金且获取奖金当月个人的工资、薪金所得低于税法规定的计算方法：用全年一次性奖金减去“个人当月工资、薪金所得与费用扣除额的差额”后的余额除以12个月，按其商数对照工资、薪金所得项目税率表，确定适用税率和对应的速算扣除数，计算缴纳个人所得税。</p> <p>计算公式为：应纳个人所得税税额=(个人当月取得全年一次性奖金-个人当月工资、薪金所得与费用扣除额的差额)×适用税率-速算扣除数。</p> <p>由于上述计算纳税方法是一种优惠办法，在一个纳税年度内，对每一个人，该计算纳税办法只允许采用一次。对于全年考核，分次发放奖金的，该办法也只能采用一次。</p> <p>11. 实行年薪制和绩效工资的人，应当如何缴纳个人所得税</p> <p>在实行年薪制和绩效工资的单位，个人平时按月取得的生活费或部分工资，应按月依照工资、薪金所得计算缴纳个人所得税。年终取得的年薪和绩效工资，应按全年一次性奖金计税办法计算缴纳个人所得税。</p> <p>12. 内部退养（或提前离岗）人员取得所得如何缴纳个人所得税</p> <p>(1) 企业减员增效和行政、事业单位、社会团体在机构改革中，未达到离退休年龄，提前离岗且未办理离退休手续（内部退养）的职工，从原任职单位取得的工资、薪金，不属于离退休工资，应按工资、薪金所得计算缴纳个人所得税。</p>	<p>(2) 個人が取得した年間一回性賞与しかも賞与を取得した当月の給与は税法に規定される控除額より低い場合は以下のように計算する：年間一回賞与から個人当月の給与と控除額を際引いた額を12月に分割して、その割った額に対する適用税率および控除金額を確定して個人所得税を計算する。</p> <p>計算式：個人所得税額＝（支給賞与額-給与所得を費用控除額（注記）で控除しきれない額）×適用税率-控除額、</p> <p>この計算は、一納税年度において、一納税義務者に対し、一度だけ使用できる。また年間評価、何回かに分けて賞与を支給する場合にも当該方法を一度だけ採用する。</p> <p>11. 年俸制及び能力給与を採用している人員の課税について</p> <p>年俸制と能力給与を採用している単位は、個人が通常毎月取得する生活費又は給与の一部分を月按分した給与、賃金に基づき個人所得税納税額を算出する。年末に取得した年間給与及び能力給与年に一度の賞与と同様の方法で個人所得税納税額を算出する。</p> <p>12. 内部退職（又は早期退職）人員が取得した所得の課税について</p> <p>(1) 企業が効率化による人員削減および事業単位、社会团体における機構改革において、退職年齢に達しておらず、また早期退職手続き（内部退職）を済ませていない人員は、前任単位からの取得給与、賃金も行いで早めに退職手続きを取り扱う職員が勤め先から取得した給与は退職給与に属さず、給与、賃金所得として課税される</p>
---	--

<p>(2) 个人在办理内部退养（提前离岗）手续后，从原任职单位取得的一次性收入，应按办理内部退养手续后至法定离退休年龄之间的所属月份进行平均，并与领取当月的工资、薪金所得合并，减去当月费用扣除标准后，以余额为基数确定适用税率和对应的速算扣除数，然后再将当月工资、薪金所得加上取得的一次性收入，减去费用扣除标准，按照已确定的税率计算缴纳个人所得税。</p> <p>应纳个人所得税税额 = [(当月工资、薪金所得 + 一次性内部退养收入) - 费用扣除标准] × 适用税率 - 速算扣除数</p> <p>(3) 个人在办理内部退养手续后至法定离退休年龄之间重新就业，取得的工资、薪金所得，应与其从原单位取得的同一月份的工资、薪金所得合并计算缴纳个人所得税。</p>	<p>(2) 個人が内部退職（早期退職）手続きを済ませた後、前任単位からの一次的収入勤め先から一括収入に関しては個人が退職手続きを取り扱う時点から法定退職年齢までの期間で分割した額が当月の給与を加算した額から控除額を差し引いた残額で適用税率と控除額を確定して再び当月の給与を一括収入と合わせた額から控除額を差し引いた残額を確定された税率で所得税を計算する。</p> <p>個人所得税額 = [(当月給与 + 一括内部退職収入) - 控除額] × 適用税率 - 控除額</p> <p>(3) 個人が内部退職手続き後法定退職年齢に達するまでの期間に再就職をした場合は、取得した給与、賃金は前任単位から取得した同月分の給与、賃金と合算して個人所得税納税額を算出する。</p>
<p>13. 个人因与用人单位解除劳动关系而取得一次性补偿收入应当如何缴纳个人所得税</p> <p>個人が単位との労働関係解除により取得した一時的補償収入の課税について</p> <p>(1) 一次性补偿收入。个人因与用人单位解除劳动关系而取得的一次性补偿收入，其收入在当地（所在省市）上年职工平均工资 3 倍数额以内的部分，免征个人所得税；超过的部分，可视为一次取得数月的工资、薪金收入，允许在一定期限内进行平均，并按照规定计算缴纳个人所得税。</p> <p>计算方法为：个人取得的一次性补偿收入，减去当地上年职工平均工资 3 倍数额以内的部分，再减去按国家和地方政府规定比例实际缴纳的住房公积金、医疗保险金、基本养老保险金、失业保险费，用此余额除以个人在本企业的实际工作年限数，以其商数作为个人的月工资、薪金收入，按照工资、薪金所得项目计算出应纳的个人所得税，然后再乘以年限数，就是应纳个人所得税税额。个人在该企业的工作年限数按实际工作年限数计算，超过 12 年的按 12 年计算。</p>	<p>13. 個人が単位との労働関係解除により取得した一時的補償収入、退職金過度費（職業安定費）は以下のように個人所得税納税額を算出する。</p> <p>(1) 一時的補償収入。個人が単位との労働関係解除によって取得した一時的補償収入は当地（当該省）前年度職員平均給与の 3 倍額以内であれば免税とする。超過部分については一時的に複数月の給与、賃金を取得したものとみなし、一定期間内煮平均按分することが認められており、規定により個人所得税納税額を算出する。</p> <p>计算方法：取得した一時的補償収入から当地前年度職員平均給与の 3 倍額以内の部分差し引き、さらに国家及び地方政府が規定する割合により実際に納めた住宅積立金、医療保険金、基本養老保険金、失業保険金を差し引いた額を本人が当該企業に在籍した年数で割った額を月次、賃金収入として、給与、賃金項目に基づき個人所得税課税対象額を算出する。その後、再度年限数を乗じた金額個人所得税納税額となる。個人の当該企業に在籍年限数が 12 年を超える場合は 12 年で計算</p>

<p>(2) 退職費收入。对于个人取得的退職費收入，可按照上述一次性补偿收入的</p> <p>(3) 安置费收入。对于企业依照国家有关法律規定宣告破产，企业职工从该破产企业中取得的一次性安置费收入，免纳个人所得税。</p> <p>14. 个人离退休后返聘取得工资收入是否需要缴纳个人所得税</p> <p>对于离退休后返聘所取得的工资、薪金收入，以及离退休后重新就业取得的工资、薪金收入，属于个人离退休后重新受雇取得的收入，应按工资、薪金所得计算缴纳个人所得税。</p> <p>15. 个人缴纳的补充养老保险金、补充医疗保险金是否可以在个人所得税前扣除</p> <p>个人缴纳的补充养老保险金、补充医疗保险金属于工资、薪金的组成部分，在计算个人所得税时，不得从当月的工资、薪金所得中扣除。</p> <p>16. 外籍人员在中国取得工资、薪金所得如何缴纳个人所得税</p> <p>外籍人员因任职、受雇、履约等而在中国境内提供劳务取得的工资、薪金所得，无论是否由中国境内或境外的企业或雇主支付或负担，均属于来源于中国境内的所得，除依照中国政府参加的国际条约、签定的税收协定或者有关政策规定可以免税或减税以外，都应按工资、薪金所得计算缴纳个人所得税。外籍人员适用的税率和速算扣除数与中国公民相同。但是，外籍人员在计算应纳税所得额时，可以在每月 1600 元的费用扣除标准的基础上，再减去附加减除费用 3200 元。</p>	<p>する。</p> <p>(2) 退職金。個人が取得した退職金は、上記の一次的補償収入と同一の方法で個人所得稅納稅額を算出する。稅法に別規定がある場合は例外とする。</p> <p>(3) 過渡費（職業安定費）。企業は国家關連法律規定により破產宣言する場合、企業職員が当該破產企業から取得した一次的括過渡費（職業安定費）は免税とする。</p> <p>14. 個人が退職後の再雇用により取得した給与と収入の課税について</p> <p>個人が退職後の再雇用により取得した給与、賃金及び退職後の再就職により取得した給与、賃金収入は退職後再就職取得収入に属し、給与、賃金として個人所得稅納稅額を算出する。</p> <p>15. 個人負担の補助養老保險金、補助医療保險金の課税について</p> <p>個人が負担している補助養老保險金、補助医療保險金は給与、賃金の一部のため、個人所得稅を算出時に当月給与、賃金から控除することはできない。</p> <p>16. 外国籍人員が中国において取得した給与、賃金の課税について</p> <p>外国籍人員が任命、雇用、契約などにより中国国内役務提供により取得した給与、賃金所得は中国国内又は国外企業或いは雇用主が負担するいかに係わらず、中国国内本源所得として、中国政府が参加している國際條約、締結納稅協定關連規定により免税とするもの以外は、個人所得稅課稅対象となる。外国籍人員に適用する税率と簡易控除額は中国公民のそれに相当する。ただし、外国籍人員の納稅所得額計算の際は、毎月 1600 元の標準基礎費用控除額以外に更に 3200 元の付加控除費用を差し引くことができる。</p>
---	--

<p>17. 哪些外籍专家在中国取得工资、薪金所得不用缴纳个人所得税</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 根据世界银行专项贷款协议由世界银行直接派往我国工作的外国专家； 2) 联合国组织直接派往我国工作的专家； 3) 为联合国援助项目来华工作的专家； 4) 援助国派往我国专为该国无偿援助项目工作的专家； 5) 根据两国政府签订文化交流项目来华工作两年以内的文教专家，其工资、薪金所得由该国负担的； 6) 根据我国大专院校国际交流项目来华工作两年以内的文教专家，其工资、薪金所得由该国负担的； 7) 通过民间科研协定来华工作的专家，其工资、薪金所得由该国政府机构负担的。 	<p>17. 以下の条件のいずれかに該当する外国籍専門家が中国において取得した給与、賃金は免税とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 世界銀行とプロジェクト借款協議のために、世界銀行から直接中国に派遣、勤務する専門家 2) 国際連合から直接中国に派遣、勤務する専門家 3) 国際連合の援助プロジェクトのために中国にて勤務する専門家 4) 援助国から無償援助プロジェクトのために中国に派遣、勤務する専門家。 5) 両国政府で締結された文化交流プロジェクトのために中国にて2年以内の勤務をする文化、教育専門家のうち、その給与、賃金を派遣国が負担する者。 6) 中国の高等教育機関の国際交流プロジェクトのために中国にて2年以内の勤務をする文化、教育専門家のうち、その給与、賃金を派遣国が負担する者。 7) 民間科学研究協定により、中国にて勤務する専門家のうち、その給与、賃金を派遣国の政府機関が負担する者。
<p>18. 个人取得劳务报酬所得应当如何缴纳个人所得税</p> <p>劳务报酬所得，是指个人从事设计、装潢、安装、制图、化验、测试、医疗、法律、会计、咨询、讲学、新闻、广播、翻译、审稿、书画、雕刻、影视、录音、录像、演出、表演、广告、展览、技术服务、介绍服务、经纪服务、代办服务以及其他劳务取得的所得。</p> <p>劳务报酬所得的应纳税所得额为：每次劳务报酬收入不足 4000 元的，用收入减去 800 元</p>	<p>18. 個人が取得する役務報酬所得の課税について</p> <p>役務報酬所得とは、設計、装飾、インストール、製図、化学検査、測定試験、医療、法律、会計、コンサルティング、講演、報道、翻訳、校正、書画、彫刻、映画、テレビ、録音、録画、演出、実演、広告、展覧、技術サービス、紹介サービス、仲介サービス、代理サービス及びその他の役務に従事して取得した所得。役務報酬所得の課税所得について、毎回の収入額は4000元以下の場合に800元が控除されるが、4000元を超える場合はその収入の20%</p>

<p>的费用；每次劳务报酬收入超过 4000 元的，用收入减去收入额的 20%。</p> <p>劳务报酬适用 20%的税率</p> <p>劳务报酬所得应纳税额的计算公式为：应纳税个人所得税税额=应纳税所得额×20%；</p> <p>对劳务报酬所得一次收入畸高（应纳税所得额超过 20000 元）的，要实行加成征收办法，具体是：一次取得劳务报酬收入，减除费用后的余额(即应纳税所得额)超过20000元至50000元的部分，按照税法规定计算的应纳税额，加征五成；超过 50000 元的部分，加征十成。</p> <p>19. 个人担任董事职务而取得董事费，应当如何缴纳个人所得税</p> <p>个人由于担任董事职务所取得的董事费收入，属于劳务报酬所得，按劳务报酬所得计算缴纳个人所得税。但是对于本企业的职工或高级管理人员同时兼任本企业董事所取得的董事费，应与其当月工资、薪金合并，按工资、薪金所得计算缴纳个人所得税。</p> <p>20. 个人获得的稿酬所得应当如何缴纳个人所得税</p> <p>稿酬所得，是指个人因其作品以图书、报刊形式出版、发表而取得的所得。</p> <p>个人获得的稿酬所得，每次收入不超过 4000 元的，可减去费用 800 元；每次收入 4000 元以上的，可减去 20%的费用，其余额为应纳税所得额。稿酬所得适用 20%的比例税率，并可以免纳 30%的税额。</p> <p>计算公式为：应纳税个人所得税税额=应纳税所得额×适用税率×（1-30%）</p>	<p>控除する。</p> <p>役員報酬所得は 20%の税率が適用される。</p> <p>個人所得税額=納税所得額×20%；</p> <p>著しく高い役員報酬（一回の所得が 20000 元を超えるものである）に対して、追加的課税される。具体的には、一回取得した役員報酬から控除額を差し引いた額（すなわち、納税所得額）が 20000 元以上 50000 以下の場合には通常の税率に基づき算定された納税額の 50%が追加的に課税され、50000 元超の部分は納税額の 100%が追加的に課税される。</p> <p>19. 個人の董事業務担当により取得した董事報酬の課税について</p> <p>個人の董事業務担当により取得した董事収入は役員報酬所得に属し、役員報酬所得として課税される。ただし、当該企業の職員あるいは高級管理者が当該企業の董事を兼任することにより取得した董事報酬は、その当月給与、賃金と合算し課税される。</p> <p>20. 個人が得た原稿料所得の課税について</p> <p>原稿料所得とは、個人は自己の作品を図書、刊行物の形式にて発表して得た所得</p> <p>個人が得た原稿所得は毎に個別に受け取る収入額が 4000 元以下の場合には、定額の 800 元を控除できる。個別の収入額が 4000 元を超える場合には収入額の 20%相当額を経費として控除した残額をもって課税所得額とされる。なお、税額の 30%が減額される。</p> <p>計算式：個人所得税額＝納税所得額×適用税率×（1-30%）</p>
--	---

本文書の著作権は弊社に帰属し、いかなる目的であれ文書の一部または全部について無断で、いかなる方法においても複写、複製、引用、転載、翻訳、貸与等を行うことを禁止します。

また、本文書の情報は弊社が信頼できると考える各方面から取得しておりますが、その内容の正確性、信頼性を保証するものではありません。弊社は当該情報に起因して発生した損害については、その内容の如何に関わらず、一切責任を負いません。